

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目標とした授業実践を行う。</p> <p>②生徒の国際的視野を一層広げ、グローバル人材を育成するため体験活動を活用した実践的な国際教育を充実させる。</p> <p>③生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、豊かで幅広い人間力を養う。</p>	<p>①電子黒板等、ICT機器の活用をさらに推進し、生徒の協働学習や主体的に学習に臨む姿の育成に活かしていく。学習支援アプリ等を有効活用しわかる授業を実践する。</p> <p>②-1 グローバル教育研究推進校として、「グローバル人材に求められる資質・能力」を育成する。</p> <p>②-2 外国語教育の充実や姉妹校交流等、積極的に国際社会へ参画する力を育成する。</p> <p>③-1 生徒主体の学校行事となるよう支援する。</p> <p>③-2 活動の成果をホームページ等で広報し、保護者・地域の理解につなげ、生徒の自己肯定感を涵養する。</p>	<p>①学習支援アプリ「ロイロノートスクール」の活用を一層推進し、主体的で協働的な学びの実践、実績をつくる。職員対象の研修会を実施しスキルアップに資する。</p> <p>②-1 全教科で取り組む「校内研究授業テーマ」を設定し、研究テーマを踏まえた授業改善と公開研究授業を行う。</p> <p>②-2 交流がより深まるようなテーマ設定や内容の工夫を通してオンライン交流をさらに推進し、多くの生徒が国際交流にかかわる機会をつくる。</p> <p>②-2 生徒が交流する時間を増やし、達成感を持てるようにする。</p> <p>②-2 日常的に「話す」活動を積極的に取り入れ、スピーチコンテストの質的向上を図る。</p> <p>②-2 2年生の発表を1年生にも視聴してもらい、次年度の発表の内容の向上の一助とする。</p> <p>③-1 行事の実施において、生徒が主体的に運営に携わり計画・実施・振り返りまでのサイクルを回すことができるよう、委員会生徒を指導する。</p> <p>③-2 引き続き、学校行事等をホームページや動画配信を利用して紹介する。</p>	<p>①「ロイロノートスクール」のメリットを活かし、主体的で協働的な授業実施が行われたか。</p> <p>②-1 「校内授業研究テーマ」を設定し、教科横断的に授業改善に取り組むことができたか。</p> <p>②-2 オンライン交流により国際理解教育がより充実したものになったか。</p> <p>②-2 オンライン交流に参加した生徒の満足度や達成感が向上したか。</p> <p>②-2 スピーチコンテストを通じて英語の力が向上したと感じた生徒が増えたか。</p> <p>③-1 生徒が主体的に行事運営を行うことができるよう指導できたか。</p> <p>③-2 本校のHPのアクセス数が増えたか。</p>	<p>①「ロイロノートスクール」の職員のスキルアップを図り、研修会等を実施した。</p> <p>②-1 授業改善をテーマに研究授業を実施し研究を進めた。公開研究授業を12月に実施した。</p> <p>②-2 ニュージーランドとのオンライン交流を実施し、生徒のニーズに応えた。</p> <p>②-2 オンライン交流への生徒の満足度や達成感についてまとめる。</p> <p>②-2 神奈川大学の留学生との交流会を実施することができた。</p> <p>②-2 スピーチコンテストを10月に実施。事後アンケート結果は、80%強の生徒が「満足」と回答。70%強の生徒が「英語力が向上したと感じた」と回答。</p> <p>③-1 本校の3大行事に、生徒が主体的に運営できるよう指導できた。</p> <p>③-2 ホームページや部活動見学週間を通じて様子を発信し、本校理解に努めた。</p>	<p>①「ロイロノートスクール」の提出物評価機能について研修を計画する。</p> <p>②-1 指導と評価の一体化について教科で授業改善に取り組んだ。今後、ICT機器を活用した評価の在り方を検討する。</p> <p>②-2 Zoomのアカウントを取得した。オンライン交流の環境改善が図られた。より多くの場面でZoomを活用できるよう進めていく。</p> <p>②-2 令和5年度より姉妹校交流等の直接交流を計画する。実現に向けて準備を進める。</p> <p>②-2 大学との交流の機会は継続したい。</p> <p>②-2 生徒のプレゼンテーション力を向上させたい。課題の発見・解決等、思考・判断・表現力を身につける指導を検討する。</p> <p>③-1 3月に計画している合唱祭において引き続き生徒主体の行事となるよう指導する。</p>	<p>①「ロイロノート」の活用の定着は評価できる。情報管理の一層の徹底が求められる。</p> <p>②-1 単元ごとの指導計画と評価を進めることができた。授業改善に活かすことを期待する。</p> <p>②-2 オンライン交流を継続できたことは評価できる。成果と課題を検証し、取組の工夫を図ってほしい。</p> <p>②-2 生徒のプレゼンテーション力育成には、人前での発表の機会が効果的である。</p> <p>③-1 生徒主体の行事運営の取組を評価する。生徒の達成感につなげてほしい。</p>	<p>①研修を実施し職員のスキルアップを図った。</p> <p>①-1 公開研究授業を実施し外部意見をいただいた。</p> <p>②-1 指導と評価について、評価方法を示すことができた。</p> <p>②-2 Zoomの学校アカウントを取得し、環境改善ができた。</p> <p>②-2 姉妹校等との直接交流ができなかった。</p> <p>②-2 留学生との交流は生徒の意欲につながった。</p> <p>②-2 生徒の課題の発見・解決等、思考・判断・表現力の育成を一層進めたい。</p> <p>③-1 3大行事に、生徒が主体的に運営できるよう指導できた。</p> <p>③-2 ホームページや部活動見学週間を通じて本校理解に努めた。</p>	<p>①ロイロノートの活用を一層進めたい。</p> <p>①-2 研究授業を継続して実施する。</p> <p>②-1 単元ごとの指導と評価の一体化について、より一層進めていく。</p> <p>②-2 海外現地校の直接交流の実現に向けて調整を続ける。</p> <p>②-2 大学との連携を継続したい。</p> <p>②-2 課題の発見・解決等、思考・判断・表現力を活かしたプレゼン力を重点課題とし検討していく。</p> <p>③-2 中学生や地域の方により伝わりやすい行事情報の発信を心がける。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解にたった支援、相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動の活性化を通して連帯感や責任感を涵養を図る。</p>	<p>①SC等の専門機関と連携した組織的な取組を推進し、生徒理解に基づく生徒指導、生徒支援により、生徒の自律心や人権意識の向上につなげる。</p> <p>②活動の成果を生徒相互に広く認知させることで他者の良さや活動を認め、自己の成長や活動を振り返り、学校生活の充実感を実感させる。</p>	<p>①-1 教育相談に関する研修を実施し、職員の総合的な支援スキルを高める。</p> <p>①-2 生徒の個別の課題の正確な把握、職員間の情報共有を踏まえた、支援策をたてる。</p> <p>②部活動の大会結果報告や練習風景等、活動実績を専用クラスルームで共有する。</p>	<p>①-1 本校生徒の課題に対応した効果的な研修が実施できたか。</p> <p>①-2 適切な支援策の検討と実施がなされたか。</p> <p>②-1 生徒相互の活動の様子を効果的に発信及び客観的に把握することができたか。</p> <p>②-2 目標の観点から適切な情報発信が行えたか。</p>	<p>①-1 コロナ禍関連自死について、ゲートキーパーとしての自覚を促す職員研修会を行った。</p> <p>①-2 コア会議を実施した。スクールメンター、カウンセラーの見立てを支援策の参考とした。</p> <p>①-2 保護者へのカウンセリング機会を進め、幅広い支援とした。</p> <p>②部活動等の成果をグーグルクラスルームで発信した。</p>	<p>①-1 ゲートキーパーとしての自覚を促す手立てを考えていく。</p> <p>①-2 生徒の家庭状況を踏まえた適切な支援策を今後も検討する。</p> <p>①-2 カウンセラーの勤務日数が不足し相談調整が難しい。</p> <p>②-1 部活動の状況をホームページ等で情報発信する。</p> <p>②-2 校内モニターの導入を検討する。</p>	<p>①-1 生徒の心のケアは一層求められる。組織的な支援体制が構築されていることは評価できる。</p> <p>①-2 外部専門機関との連携を進めてほしい。</p> <p>②-1 ホームページを、学校を知る情報源として期待する。</p>	<p>①-1 職員のカウンセリングマインドの涵養とゲートキーパーの意識づけができた。</p> <p>①-2 児童相談所等の外部機関と連携しより細かな生徒支援が行えた。</p> <p>②-1 部活動の成果をホームページ等で発信できた。</p>	<p>①-1 きめ細やかな生徒支援とするため、外部機関、保護者と一層連携する。</p> <p>②-1 伝わりやすい情報発信を心がける。</p> <p>②-2 校内モニターで効果的に情報を発信する。</p>

3	進路指導・支援	①社会との関わりや自己の在り方について、主体的に考える態度の涵養を図り、自己実現につながる進路選択となるような手立てを講ずる。	①自己の生涯にわたる生きかた、人としてのありかたについて考察させ、自己および他者の幸福を追求するために必要な価値観、使命感、職業観を育む。	①-1 生徒が自己の適性や希望を明確にするため、生徒の発達段階に応じた3年間にわたる計画的・体系的なガイダンスを実施する。 ①-2 生徒の自己マネジメント力、スケジュール管理能力、タスク管理能力を高める。 ①-3 外部機関と連携し、生徒の適性や希望を踏まえた進路選択を考える機会を充実させる。	①-1 「総合的な探究の時間」などを通じて、生徒が自己の生き方、あり方について考察できたか。 ①-2 生徒にセルフマネジメントの重要性を理解させることができたか。 ①-3 進路選択に有効な各種説明会を適切な時期に開催し、進路選択に有効な情報を生徒・保護者に提供できたか。	①各学年が策定した年間計画に基づき、「総合的な探究の時間」、各種進路説明会・進路講話、模試などを活用し、一元的な視点で進路支援を提供できた。	①さらに有効な進路支援を行うには、進路グループメンバー以外の教員（担任・副担任）の進路情報の理解や支援スキルをより高める手立てが必要である。	①大学、学部選択では、入学後の学習内容を理解しておくことが効果的である。入学後のミスマッチを防止すべき。	①科目選択や進路選択にあたり、自己の将来の人生設計につなげて考えるよう生徒に働きかけることができた。目標達成に向け、学習態度や日常の行動を自ら適切に管理できる力をつけることについては課題が残った。	①組織的な進路支援となるよう日常関わりのある学年の教員、教科担当教員の進路情報の理解や支援スキルをより高めたい。進路業者を効果的に活用し、有効なプログラムを積極的に導入し、さまざまな研修機会を設定していく。
4	地域等との協働	①家庭、地域の教育力を活用し地域との交流活動を通し、生徒、保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざす。	①-1 学校運営協議会の機能を活用し、生徒と地域との交流活動を推進する。 ①-2 ホームページ、twitter等の広報媒体を充実させる。	①-1 対面での会議を開催し、交流事業等の具体的実現を図る。 ①-2 ホームページの更新を増やす。twitterによる広報活動を行う。	①-1 対面での会議を開催できたか。交流事業を実現できたか。 ①-2 ホームページの更新回数が、令和3年度に比べて増加したか。 ①-2 twitterによる情報発信が安定的に実施されているか。	①-1 部活動の生徒が地域一斉清掃に参加した。 ①-2 部活動の広報の更新ができた。 ①-2 twitterは回数、更新間隔とも増えた。	①-1 今後も地域との交流の実現を図る。 ①-2 全ての教職員がHPの更新やtwitterでの発信ができるよう組織的な取組に向けて工夫していく。	①地域の一斉清掃に参加いただき感謝する。 ①-2 twitter等、様々な広報媒体の活用を評価する。	①-1 部活動の生徒が地域一斉清掃に参加した。 ①-2 前年度よりtwitterの更新回数が増加した。 ①-2 学校全体でHP更新に積極的に関わることができなかった。	①-1 今後も地域との交流の実現を図る。 ①-2 本校の教育活動の積極的発信のため、多くの教員がHP更新に関わりをもてる仕組みを検討していく。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼・信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。 ③教員のライフワークバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。	①-1 生徒の防災意識を高める教育機会をより充実させる。 ①-2 資源の有効活用等、環境意識を高める取り組みを行う。 ②-1 日頃から、職員間の情報共有を図るとともに事故不祥事防止会議等を定期的に開催し、業務の点検を行う。 ②-2 成績処理、調査書、推薦書の点検体制を確立し適切な処理を実施する。 ③長期休業期間中の学校閉庁日の設定。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。	①-1 実践的な防災訓練を行う。PTAと連携して登下校指導や1年生を対象としたスケアード・ストレイトを実施する。 ①-2 環境問題をテーマに様々な課題について生徒に考えさせ、生徒環境整備委員等の活動を活性化させる。 ②-1 グループ会議、学年会、教科会等の設定された会議だけでなく、日常的に連絡や相談を行う風通しのよい職場づくりを行う。 ②-2 事故防止研修会を毎月実施する。啓発資料のチェックリストを活用して職員の意識を高める。会計担当者の研修会を行う。 ②-2 成績処理支援システムによる生徒の出欠席管理等を軌道に乗せる。授業出席管理での事故防止を図る。 ②-2 学校全体で正確な点検に努め、組織的な体制で臨む。 ③学校閉庁日の完全実施をめざす。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。	①-1 実践的な防災訓練が実施できたか。スケアード・ストレイトの実施により、生徒の安全意識が高まったか。 ①-2 生徒を中心とした古紙回収・再利用等の活動に取り組めたか。 ②-1 職員間の情報共有を適切に行うことができたか。事故防止に対する当事者意識の向上とヒヤリハットを含めた事故防止はゼロにできたか。適切な会計処理ができたか。 ②-2 成績支援システムの出欠管理を通じて、担任と教科担当が密に連絡をとり、生徒の出欠状況を適切に把握できたか。 ②-2 教科・グループ・学年が協働した正確な対応ができたか。 ③学校閉庁日の完全実施、夏季休暇の平均取得日数が4日以上となったか。	①-1 シェイクアウトと防災避難訓練を行った。PTA連携してバス乗車指導や自転車空気入れキャンペーンを行った。 ①-2 生徒環境整備委員会による古紙回収活動を行った。 ②-1 毎月、事故防止研修会を実施。短時間の中で要点を絞って行い、まとまった内容とした。 ②-2 成績支援システムを通じて日々の出欠管理を電子化した。担任・教科担当との連絡を定着させ、より綿密な連絡ができるようになった。 ③夏季休暇の取得状況は目標を達成できた。学校閉庁日も職員の休暇取得促進に効果があった。	①-1 雨天時の防災訓練の体育館集合について、感染防止の観点から形態について検討を加える。 ①-2 引き続き資源の再利用に取り組み、環境意識を高める。 ②-1 事故防止のテーマが固定化されてきた。本校の重点課題を考える機会が必要である。 ②-2 成績処理支援システムの大幅な改修もあり、運用について課題があった。非常勤講師への対応を含め、安定した運用を目指す。 ③休暇取得状況は、職員間で差がある。年間10日の年次休暇取得を目指す。	①-1 生徒の防災意識の啓発を一層進めてほしい。地域と連携した防災訓練を実施したい。 ①-1 交通安全教育の推進を評価する。地域での交通マナーを働きかけてほしい。 ③職員の働き方改革を組織的に進めてほしい。	①-1 シェイクアウト、防災避難訓練等、例年の取組を計画通り実施できた。生徒の安全意識を高めることができた。 ①-1 スケアード・ストレイトを1年生対象で実施した。 ①-2 生徒環境整備委員会による古紙回収活動を行い、資源の再利用に取り組めた。 ②-1 職員の事故不祥事防止研修会を月例で実施した。 ②-2 成績処理支援システムにより、生徒情報管理がより一般化された。出欠状況等を一元管理できた。 ③職員の休暇取得の意識は年々高まっている。	①-1 生徒に分かりやすく安全意識を高められるよう工夫していく。 ①-2 資源の再利用をさらに進めていく。 ②-1 事故防止に組織的に取り組むよう、研修会の持ち方を工夫したい。 ②-2 成績処理支援システムに年度途中の変更があった。年度当初から管理方法を示し、より安定した運用をする。 ③職員の働き方改革をさらに進める取組を検討したい。